

- 当地域は県内一の柑橘産地であるが、**販売農家数が年々減少**しており、**65歳以上の農業従事者が59%を占める**など、**農業者の減少と高齢化**が進んでおり、**担い手の確保が喫緊の課題**である。
- 農業に魅力を感じる人が増え、**Uターンや世代を越えた就農、季節雇用からの就農、第三者継承等、様々な形態の新規参入者が増加傾向**である。
- 市町等関係機関と協力し新規就農者の受入体制を構築**するとともに、**早期に経営安定するよう支援**することにより、**就農者の確保と円滑な育成**に取り組む。

具体的な成果

1. 産地受入体制の整備(R3～R4)

■管内1市3町のうち2町（有田川町農業後継者受入協議会、広川町農業後継者育成協議会）で新規就農者受入協議会が設立され、合計4名が研修。

■多様な就農形態による就農者の確保。

- ①第三者継承による就農支援を行い、3名（うち夫婦2名）が就農。
- ②雇用就農から独立自営就農支援を行い、2名が就農。

2. 新規就農者への積極的支援(R3～R4)

■早期独立経営への支援。

- ①認定新規就農者30名確保。
- ②農業基礎技術研修会3回開催。
- ③経営拡大の意向調査・相談を行った結果、1名が1.2ha以上の農地を確保。

■経営拡大への誘導、儲ける農家の育成。

- ①新規就農者148名をリスト化し、優先順位をつけて効率的に指導。
- ②法人化による経営継承の相談を受け、1名が法人による経営継承。
- ③資金借入相談会を開催した結果、農業者自らが経営発展に向けた手段を熟考するきっかけに。
- ④枝梢管理で隔年結果を是正する栽培技術を持つ「優れた栽培技術を有する農業者」を有田振興局独自で1名選定。
- ⑤管内の4Hグループが省力化のため、ドローンで柑橘に薬剤散布試験を開始。予想以上に果実や葉に薬剤が付着。

普及指導員の活動

■2町の新規就農者受入協議会に対し、就農希望者が効率的に技術習得できるよう研修内容やスケジュール等を助言、研修計画書の作成を支援。

■雇用就農から独立・自営、第三者継承による独立・自営希望者に対して、栽培技術指導や制度資金・各種施策活用等の支援を随時実施。

■「匠の技 伝道師」を講師として「アグリビギナー研修会」を開催し、栽培技術、知識習得支援および農家間交流を実施。また、コロナ禍により、研修会等の開催が制限されたため、個別の営農相談も実施。

■法人化や資金の相談も多いため、関係機関を招いた相談会を実施。

■傾斜の柑橘園であまり普及していないドローンによる薬剤散布を果樹試験場とともに指導。

普及指導員だからできたこと

■担い手育成には、地域の関係者との連携が必要不可欠である。**普及指導員だからこそ、地域の関係者をまとめ、産地全体で取り組みを進めることができた。**

■新規就農者の求める経営や技術は様々であり、必要とする支援は異なる。**普及指導員と関係機関との連携により、細やかな指導に取り組めた。**

有田みかん産地 多様化する就農形態に対応した新規就農者の確保対策

活動期間：令和3年度～(継続中：令和5年度)

1. 取組の背景

温州みかんを中心とした柑橘の主産地である有田地域の販売農家数は3,040人であり、10年間で881人減少している。農業経営体の65歳以上の農業従事者が59%を占めるなど、農業者の減少と高齢化が進んでいる(2020農林業センサス)。

一方、近年はみかんの販売単価が比較的安定していることや農業に魅力を感じる人が増えたことから、親元就農に加え、Uターンや世代を飛び越えた就農、季節雇用からの就農、第三者継承等様々な形態の新規参入者が増加傾向であり、就農希望相談も増加している。

産地の維持、発展を図るため、市町等関係機関と協力し就農者の受入体制を構築するとともに、新規就農者の早期の経営安定化を支援することにより、これらの多様化する就農形態に対応した新規就農者の確保と円滑な育成に取り組む。

2. 活動内容

(1) 産地受入体制の整備

ア 産地受入モデルの構築

令和3年度に設立された有田川町農業後継者受入協議会(受入農家・法人、JAありだ(以下JA)、有田川町)に対し、就農希望者が効率的に技術習得できるよう研修内容やスケジュール等を助言、研修計画書の作成を支援した。

併せて、当協議会をモデルとして、管内他市町にも設立の働きかけを行った。

イ 多様な就農形態による就農者の確保

就農希望者に対し、聞き取り調査を行い、独立自営就農や第三者継承への意向を聞き取った。希望者には就農相談を行い、栽培技術指導、第三者継承の進め方および制度資金・各種施策活用等の情報提供を行った。また、1月に市町とJAを対象とした第三者継承研修会を開催した。

(2) 新規就農者への積極的支援

ア 早期独立経営への支援

就農して6年目までの農業者の技術確立と交流を目的とした「アグリビギナー研修会(農業子プロジェクト研修会合同開催)」を3回開催した。4月は栽培技術研修を行い、柑橘の接ぎ木技

術の向上を図った(7名)。2月には、「匠の技 伝道師」による講演、新品種・省力機械(温州みかん外観選別装置)の紹介およびアシストスーツ試着体験を行い、知識の向上を図った(25名)。3月には



アグリビギナー研修会(4月)

「匠の技 伝道師」を講師として招き、温州みかんせん定講習会を行った（25名）。

その他、省力化および販路拡大のため、「わかやまスマート農業フェア」、「初めてのeコマース支援事業セミナー」等の研修会やイベントの情報提供を行った。

イ 経営拡大への誘導、儲ける農業者の育成

新規就農者の経営拡大への誘導として、これまでの過去6年間の新規就農者調査や普及活動の中で把握した新規就農者計148名について、就農形態や栽培作物別にリスト化し、これまで接点のなかった新規就農者に対しても効率的に支援できるようにした。

また、みかんの栽培管理技術を次世代に継承するため、枝梢管理で隔年結果を是正する優れた技術を有する生産者1名を「優れた栽培技術を有する農業者」として振興局独自に選定、今後技術習得希望者とのマッチングを行う予定である。

3. 具体的な成果

(1) 産地受入体制の整備

ア 産地受入モデルの構築

有田川町農業後継者受入協議会では、設立当初10戸の先進農家や法人が研修受入農家として参画し、温州みかん、中晩柑およびニンニクにおいて研修が可能であったが、令和4年度はさらに5戸の先進農家等が参画し、山椒、花きおよび水稲での研修も可能となった。令和4年度の研修生は4名（内1名は研修終了し、独立自営就農を開始）である。

また、広川町において令和5年3月に広川町農業後継者育成協議会（受入農家、JA、広川町、有田振興局）が設立され、研修受入農家として2戸の先進農家が参画、柑橘類での研修が可能となった。

イ 多様な就農形態による就農者の確保

就農希望者について、栽培技術指導や制度資金・各種施策活用等の支援を随時行っている。県外より有田地域に就農希望の夫婦に対し、令和3年度より温州みかん栽培に関する技術指導、給付金および資金の相談等を行った結果、令和4年4月より第三者継承による独立自営就農を開始した。また、雇用就農から第三者継承につなげるため、継承予定先で雇用されながら継承準備を進めている1名と、就農支援センターの県外からの研修生で、先進農家への長期研修中に研修地区内の農家との間で第三者継承準備が進んでいる1名に対し、就農開始に向けた支援を行っている。

(2) 新規就農者への積極的支援

ア 早期独立経営への支援

今年度は、「アグリビギナー研修会」を3回開催することができ、栽培技術、知識習得支援および農家間交流ができた。また、昨年度と同様に個別指導にも重点を置き、「個々の経営状況の把握および課題の共有」、「給付金や補助事業の相談」、「規模拡大に係る品種構成や他作物導入相談」、「販売先の相談」、「栽培及び選果指導」などより細かな指導や支援を行った。

これらの指導や支援により、新たに18名が認定新



個別指導

規就農者として認定された。

イ 経営拡大への誘導、儲ける農業者の育成

新規就農者のリスト化及び優先順位（これまで接点のなかった新規就農者を最優先）をつけることにより効率的に指導することが可能となった。相談および指導件数（延べ）は、リスト者 67 名、既農業者 96 名、就農予定者 37 名であった（R5.2 末時点）。

指導の中で、経営継承の相談があり法人化に向けた指導を行った結果、1 名が 9 月に法人を立ち上げ経営継承を行った。また、規模拡大や省力機械導入のための資金借り入れ相談が多かったため、10 月に資金相談会（参集：新規就農者、日本政策金融公庫、県信用農業協同組合連合会、JA、関係市町、有田振興局）を開催し、新規就農者 3 名がスプリンクラーや省力機械導入のための資金を借り入れることができた。このような活動の中で、農業者自らが経営発展に向けた手段等を熟考するようになった。

栽培指導関係では、温州みかんにドローンによる薬剤散布を行いたい 4 H グループに対して、果樹試験場とともに技術指導を行い、試験的にドローンによる散布を行った。予想以上に果実や葉に薬剤が付着していたことから、令和 5 年産から本格的にドローンによる薬剤散布を行う予定である。



資金相談会



ドローン散布試験

4. 農家等からの評価・コメント（有田市 Y 氏）

農業従事者が減少している中、新規就農希望者を研修生として受け入れる協議会が 2 町で設立され、さまざまな品目の研修ができることは画期的である。研修生には 1 農家だけでなく、複数の農家の技術や経営を学んでいただきたい。

行政には、就農者が自ら考え儲かる農業のため、いろいろな事を考える研修（高品質果実生産技術、有利販売方法、6 次産業化で成功している事例等）の場をつくっていただきたい。また、農業経営を開始しても無収益期間や設備投資等が必要で生活が不安定である。将来の展望が開けるよう補助金などの手厚い支援をお願いする。

5. 普及指導員のコメント（有田振興局農業水産振興課・主任 城村徳明）

近年、みかん価格が安定しており、親元就農や U・I ターンでの就農希望者が増加している。引き続き、個別相談等を行い早期独立経営に向けた栽培技術指導や国の施策等を活用した支援等に取り組んでいく。

広川町農業後継者育成協議会が発足し、更なる受入農家の確保と研修希望者とのマッチン

グを行っていく。また、他市町に波及していきたい。

今年度は技術研修会を3回開催できた。次年度は相談業務の中で意向を聞き取り、必要とされる研修会を開催し、就農者の経営意識と栽培技術向上を図りたい。

6. 現状・今後の展開等

令和4年度は広川町農業後継者育成協議会が設立され、就農希望者の新たな研修先として稼働した。関係機関と連携しながら、また有田川町農業後継者受入協議会をモデルとして研修生の希望に沿った協議会とする。また、有田川町と広川町の協議会をモデルとして他市町に波及させていく。

さまざまな就農形態（第三者継承等）の推進のため、関係市町やJAと連携して後継者がいない農業者に個別に相談を行い、就農希望者に繋げていく。

早期独立経営への支援として、就農者の意向を把握しながら今年以上に研修会などを実施する。また、今年度同様に個別指導も充実する。

経営拡大への誘導、儲ける農家の育成について、農業者の意向に沿った相談会や研修会の開催を検討したい。また、「優れた栽培技術を有する農業者」を講師として招いた研修会や技術習得希望者とのマッチングを行い、新規就農者および若手農業者の更なる技術向上を図っていく。



農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同研修会

アシストスーツの試着



農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同せんだ講習会

講師 匠の技伝道師 佐原洋一氏